



## 名蔵湾のサンゴ、回復進む

### 八重山ダイビング協会が確認

### 自然再生のモデルに

かつて土砂流入などの影響で多くが死滅したと言われてきた石垣市名蔵湾のサンゴは回復が進んでいることが、八重山ダイビング協会が実施したオニヒトデ駆除の過程で明らかになった。湾中央部ではコモンシコロサンゴの大群落もみつきり、「国内最大規模の可能性がある」という。同協会は「オニヒトデの食害を防ぐことができれば、豊かなサンゴ礁生態系が再生する可能性がある」としている。



### 国内最大規模の群落も

同協会は2012年度、石垣市から委託を受け、オニヒトデ駆除サンゴ保全事業を実施。駆除した2万4647匹のうち、94.2%に当たる2万3221匹が名蔵湾だった。この結果からも、名蔵湾にはオニヒトデが食すサンゴが多いかが分かる。

同協会は2012年度、石垣市から委託を受け、オニヒトデ駆除サンゴ保全事業を実施。駆除した2万4647匹のうち、94.2%に当たる2万3221匹が名蔵湾だった。この結果からも、名蔵湾にはオニヒトデが食すサンゴが多いかが分かる。

同協会は2012年度、石垣市から委託を受け、オニヒトデ駆除サンゴ保全事業を実施。駆除した2万4647匹のうち、94.2%に当たる2万3221匹が名蔵湾だった。この結果からも、名蔵湾にはオニヒトデが食すサンゴが多いかが分かる。

雄環境対策委員長は「20-30匹あるとみられるだろう。なるべく早く調査したい」と話した。

湾中央部ではほかに、水深20m付近でサオトメシコロサンゴの群落が広範囲にわたって確認された。屋良部半島の大崎南橋では陸域から近い海域でサンゴの群生がみられた。湾内にはミドリイシ群落、ユビエタハマサンゴなども生息していた。

「全体として回復しているが、透明度はまだ悪い」と指摘する。名蔵湾は沿岸漁業の漁場としても重要で、漁業者の一人は「かご網、定置網、潜り漁ができて、天然モスクやシヤコ貝も採れる。冬の天気の良いときでも行ける良い漁場」と話す。



屋良部半島大崎南橋の沿岸部に生息するサンゴの群生  
11月9日撮影、八重山ダイビング協会提供

名蔵湾奥で確認されたコモンシコロサンゴの大群落  
11月15日撮影、八重山ダイビング協会提供